

令和 5年 3月 31日

## 令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立中野東小学校（外10校）	鹿嶋市教育委員会	公立

## 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等
鹿 嶋 市 立 中 野 東 小 学 校	<a href="http://www.kashima.ed.jp/~nakahiga-el/%e7%89%b9%e5%88%a5%e3%81%ae%e6%95%99%e8%82%b2%e8%aa%b2%e7%a8%8b%e3%81%ae%e5%ae%9f%e6%96%bd%e7%8a%b6%e6%b3%81">http://www.kashima.ed.jp/~nakahiga-el/%e7%89%b9%e5%88%a5%e3%81%ae%e6%95%99%e8%82%b2%e8%aa%b2%e7%a8%8b%e3%81%ae%e5%ae%9f%e6%96%bd%e7%8a%b6%e6%b3%81</a>	<a href="http://www.kashima.ed.jp/~nakahiga-el/%e7%89%b9%e5%88%a5%e3%81%ae%e6%95%99%e8%82%b2%e8%aa%b2%e7%a8%8b%e3%81%ae%e5%ae%9f%e6%96%bd%e7%8a%b6%e6%b3%81">http://www.kashima.ed.jp/~nakahiga-el/%e7%89%b9%e5%88%a5%e3%81%ae%e6%95%99%e8%82%b2%e8%aa%b2%e7%a8%8b%e3%81%ae%e5%ae%9f%e6%96%bd%e7%8a%b6%e6%b3%81</a>

## 2. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

## (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2020年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力の世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

- (3) 特例の適用開始日  
 2007年4月  
 2018年4月 変更

- (4) 取組の期間  
 2030年4月まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている  
 一部、計画通り実施できていない  
 ほとんど計画通り実施できていない

- (2) 実施状況に関する特記事項  
 なし。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している  
 実施していない

<特記事項>

(1) 第1学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
70.0%	16.0%	8.0%	6.0%

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
48.0%	32.0%	14.0%	6.0%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになりたい	どちらかというと話せるようになりたい	どちらかというと話せるようにならなくてもよい	話せなくてもよい
76.0%	12.0%	4.0%	8.0%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという知りたい	あまり知りたくない	知らなくてよい
62.0%	18.0%	12.0%	8.0%

(2) 第2学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという楽しい	どちらかという楽しくない	楽しくない
53.2%	31.9%	14.9%	0%

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという楽しい	どちらかという楽しくない	楽しくない
63.8%	17.0%	14.9%	4.3%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになりたい	どちらかという話せるようになりたい	どちらかという話せるようにならなくてもよい	話せなくてもよい
76.6%	14.9%	8.5%	0%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという知りたい	あまり知りたくない	知らなくてよい
76.6%	14.9%	8.5%	0%

(3) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
55.5%	33.3%	11.2%	0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
88.8%	11.2%	0%	0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
55.5%	44.5%	0%	0%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語に慣れ親しむこと。外国への興味関心などを高め、国際的視野を広げること。</li> <li>・ 外国の方との触れ合い。</li> <li>・ 外国の方や、外国語をスムーズに受け入れる事が出来ること。</li> <li>・ 外国語を発することに抵抗を少なくすること。</li> <li>・ 楽しみながら外国語に触れ、外国語に慣れ親しむこと。</li> <li>・ 楽しんで活動すること。</li> <li>・ 正しい発音の聞き取りができるようになることやコミュニケーションの素地を培うこと。</li> </ul>			

(4) 保護者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
45.7%	40.0%	14.3%	0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
60.0%	34.3%	5.7%	0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
25.7%	54.3%	20.0%	0%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を子ども自身が楽しいと感じられる授業になれば良いと思います。</li> <li>・1年生、2年生はリスニングをメインに楽しく覚えてもらいたいです。</li> <li>・外国の小学生とリモート会話</li> <li>・英語が楽しいと思える授業をしてほしいです。</li> <li>・海外の文化や人、英語に親しむこと。</li> <li>・授業数をもっと増やして慣れてほしいです。</li> <li>・英語を学ぶことが楽しいと思えるような授業が行われるといいなと思います。</li> <li>・外国語に興味をもつことです。</li> <li>・時間割の一部で外国語活動と考えず、日常英会話が身につくやり方や学習に期待する。</li> <li>・英語でのコミュニケーション能力の向上。</li> <li>・先生と会話をする活動。</li> <li>・今1年生ですが、少し苦手意識を持っていた英語を楽しく受け入れられているようで、今後このまま楽しく英語と仲良くなっていくことを期待します。ALTの先生のおかげか発音も良く驚いています。</li> <li>・少しでも英語に慣れ親しむこと</li> </ul>			

#### 4.

##### 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

- ・楽しみながら外国語に慣れ親しむことで、音やリズムが自然に身に付いてくる。
- ・ゲーム的な活動など体を動かして、楽しく英語に触れる時間を確保する。
- ・苦手意識をもつことなく、外国語に取り組める活動内容の工夫の必要がある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・外国に対する文化や伝統について、映像を通して確認することができるが、実際に使われているもの等を学習に入れたり、学習場面を設定して演じたりすることを取り入れ、英語を活用してのコミュニケーション力を育成する。
- ・パフォーマンステストでは、非言語（ジェスチャー・アイコンタクト・クリアボイス）が中心になっている。内容（正確さ・適切さ）についてさらに深めていきたい。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

- ・クロームブックを活用し、各学年の実態に応じた指導の工夫をする。
- ・「Small Talk」の活動で、日常的に既習事項を用いる時間の提供、確保をする。
- ・言語活動を行う「目的・場面・状況」を明確にする。パフォーマンステストにおけるルーブリック評価を評価のためだけでなく、支援するための手立てとして用いるようにする。
- ・非言語（ジェスチャー・アイコンタクト・クリアボイス）については、3年生から継続的に指導する。コミュニケーションにおける1つのマナーとして児童が身に付けられるように意識させる。
- ・TPRなどを通して、ジェスチャーを取り入れ、楽しく英語に慣れ親しむ時間を設定する。